

# アサリ移殖技術研究

(予算区分 県単独 研究期間 平成18年～20年度)  
担当：浜名湖分場

## 【研究の背景とねらい】

- ・浜名湖のアサリの漁獲量は豊漁期には約8千トンありましたが、近年2～3千トンに低迷しており、資源の回復が望まれています。
- ・漁業者は湖内で大量に発生した稚貝を採取し他の漁場へ移殖放流していますが、移殖した稚貝が死亡してしまうなど十分な効果が得られていません。
- ・そこで、湖内の稚貝発生状況、移殖先の成長・生残を調査し、移殖方法を検討することで、湖内の資源を効率的に利用するアサリ増殖技術を開発します。



漁業者による稚貝の移植作業



放流後2ヶ月のアサリ  
(放流時に赤色ラッカー標識)

## 【これまでに得られた成果】

(平成18年度の成果)

- ・湖北部の佐久米では成長が良い反面、夏季に15mm前後で半減したことから、稚貝採取場所として適当であると考えられました。
- ・殻表面の温度が42℃に達すると30分～2時間で死亡数が急増したことから、夏は移殖に不適と考えられました。
- ・1,600個/m<sup>2</sup>(殻長25mm)の放流で2ヶ月連続 - 20%の減耗が起こったことから、移殖密度は1,000個/m<sup>2</sup>以下が望ましいと考えられました。

(平成19年度の成果)

- ・湖北部では秋に大量の稚貝の加入が認められました。
- ・庄内湾や湖北部では成長は良いものの貧酸素や有害赤潮により大量死亡しました。一方、湖南部の自主禁漁区やB禁漁区は、湖北部等と比べ成長はやや劣るものの死亡率が低かったことから、移殖適地と考えられました。
- ・採取した稚貝のグリコーゲン含量(活力)は2時間で3割、3時間で6割低下したことから、稚貝採取作業から放流までは速やかに行うことが望ましいと考えられました。

## 【期待される成果】

- ・増殖場や禁漁区の高度利用の推進と漁業者の資源管理意識の高揚により、計画生産と漁獲増大が期待されます。

## 【今後の計画】

- ・湖奥部で秋季に大量発生した稚貝の生残と成長を追跡します。
- ・深場への移殖試験を実施し、生残、成長、グリコーゲン含量を把握することで、平成19年度の結果も併せて移殖適地を探します。
- ・稚貝を用いた温度耐性試験とグリコーゲン分析を併用することで、適正な移殖時期やサイズ、輸送方法等の検討を行います。  
(作成 平成20年4月)